

令和3年度 福島小学校学校評価結果の報告

1 これまでの経過

- ① 5月 重点目標の達成、努力事項に対する具体的取り組み事項の検討および外部アンケート案の作成（校内研修）
 - * 学校長の経営方針と昨年度の学校評価の結果を考慮し、各学年の児童の実態をもとに具体的取り組み事項を検討した。（別紙①具体的取り組み事項参照）
 - * 昨年度の外部アンケートと今年度の具体的取り組み事項をもとに外部アンケート案を作成した。
- ② 8月 1学期の実践振り返りと改善のための手立て検討およびアンケート案の検討（学年別）
 - * 各学年で1学期の実践を振り返り、具体的取り組み事項実践のための手立てを検討した。
 - * 外部アンケート案について検討し、今年度のアンケートを決定した。
- ③ 10月 具体的取り組み事項実践発表による情報共有と中間自己評価の実施（校内研修）
 - * 自分たちの取り組みについて、各自で中間自己評価を行うとともに、全体研修において学年ごとに具体的取り組み事項実践について発表し、情報共有と今後の実践に向けた意見交換を行った。
- ④ 12月 外部アンケート実施および2学期の実践振り返り（学年別）
- ⑤ 1月 アンケートの集計と分析（校内研修・学年別）
- ⑥ 2月 年度末自己評価の実施・来年度の課題と改善策の検討（校内研修・グループ別）
- ⑦ 3月 学校関係者評価実施（評議員会）
- ⑧ 3月 学校評価について報告（職員会）
- ⑨ 市教委へ報告 保護者への手紙による報告とホームページへのアップ

2 学校経営基本方針

(1) 学校教育目標

「就將」の精神を基盤として、夢や希望を抱き、未来に向かってたくましく生きる子どもの育成

(2) 重点目標

- ① 確かな学力を身に付けた子どもの育成
- ② 豊かな心で助け合える子どもの育成
- ③ 健やかで、たくましい子どもの育成
- ④ 一人一人を大切にす指導
- ⑤ 安全・安心な学校づくり
- ⑥ 保護者・地域等と協力・連携した学校づくり
- ⑦ 効率的で働きやすい職場づくり

3 児童・保護者アンケート

全学年の児童・保護者にアンケートを実施した。アンケートについては昨年度、一昨年度との経年比較もできるようにした。

(1) 児童アンケート集計結果（別紙②参照）

それぞれの質問項目について、よくできている・大体できている・あまりできていない・できていないの4段階でアンケートを実施した。また、（よくできている・大体できている）を肯定的評価（プラス）とし、（あまりできていない・できていない）を否定的評価（マイナス）とした。

(2) 保護者アンケート集計結果 (別紙③参照)

それぞれの質問項目について、そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わないの4段階でアンケートを実施した。また、(そう思う・大体そう思う)を肯定的評価(プラス)とし、(あまりそう思わない・そう思わない)を否定的評価(マイナス)とした。

(3) アンケート結果(児童・保護者)からの考察・分析

【良かったところ】

(児童アンケート)

- ・パソコン(タブレット)やテレビを使った学習は分かりやすいですか。(91%)

昨年度の研究から引き続き、ICTを用いた実践ができています。一人一台のタブレット導入により、タブレットの使用になれてスキルが向上し、学習で活用できるようになった。デジタル教科書は、映像や音声でわかりやすい学習が可能となっている。また、タブレットの効果により、自分で体験する学習にも進んで取り組むようになってきている。(83%前年度より9%増)

- ・チャイムを守っていますか。(87%)
- ・名札をつけたり、上靴をきちんと履いたりしていますか。(84%前年度より5%増)

学年や学校全体で声をかけ、継続して取り組んできたことが実を結び始めている。

- ・マスクをつけたり、手洗い・うがい・消毒をしたりしていますか。(90%)

教師や児童同士の声かけでほとんどの児童が実施できており、感染症対策に留意した行動が定着してきている。

(保護者アンケート)

- ・毎朝、決まった時間に起きていますか。(93%)

- ・毎日、朝ご飯を食べていますか。(93%)

規則正しい生活ができるよう、生活習慣に気をつけてくださっている保護者の方が多い。

- ・遊びのルールやマナーを守り、友達と仲良く遊んでいますか。(92%)

放課後の子どもの様子や交友関係から、友達と概ね仲良くできているととらえている保護者の方が多い。

- ・お子様と、避難訓練など防災についてお話をすることがありますか。(63%前年度より4%増)

実際に地震が起きて避難をしたことや、毎回の避難訓練後に家庭で話し合っけて記入するワークシートを活用したことで、これまでよりも防災に対する意識が高まったと考えられる。

- ・学校は、交通安全指導、生活安全指導、防災についての指導を適切に行っていると思いますか。(93%)

- ・警報発令時など、適切な連絡体制が整備されていると思いますか。(93%)

- ・学校は、新型コロナウイルス感染症に関する対応や情報発信を適切に行っていると思いますか。

(91%)

学校の取り組みに対し、肯定的に評価している家庭が多い。

(共通)

- ・宿題をきちんとしていますか。(児童91%、保護者92%)

家庭学習の習慣が定着しており、宿題を全員提出できる学級が増えている。

【課題とその改善策】	
【課題】	【改善策】
<p>（児童アンケート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを進んで言うことができているか。(62%) ー昨年度(69%)に比べ、昨年度(63%)から減少しており、感染症対策のために活動や発言がしにくい状況が起きていることが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会・帰りの会で日直が話す場を設定する等、全員が必ず話す場を設定する。 ・誰もが答えられるような発問を取り入れ、多くの児童が発言できる機会を増やす。 ・発言しやすい受容的な雰囲気作りに努める。
<ul style="list-style-type: none"> ・授業が始まるまでに、学習(本やノート)の準備ができていますか。(73%) ・廊下や階段を走らず、右側を歩いていますか。(67%) どちらも継続した声かけにより改善傾向ではあるが、十分とは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日直のあいさつの中に、次の学習準備の声かけを入れ、班や係など、子ども同士で見合う。 ・運営委員や学級のリーダーを中心に啓発する。 ・整理整頓等の環境整備をして、心にゆとりをもち落ち着いて行動できるようにする。 ・教室移動の際に、並び方や歩き方を身につける。
<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間には元気に外で遊んでいますか。(72%) 逆上がり練習用傾斜坂の設置、ベルマークによるボール購入など、外遊びの意欲を高める教材や環境の整備を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して体育学習の充実や環境整備を図る。 ・学級で遊ぶ日を設定するなど、普段あまり外へ出ない児童にも、外遊びの楽しさを味わうきっかけを作る。
<ul style="list-style-type: none"> ・トイレのスリッパを揃えたりゴミを拾ったりするなど、みんなのためになることができているか。(70%) ・先生はあなたのことを認めてくれていますか。(79%) ・何か困ったときに、先生に相談できますか。(69%) ・学校へ行くのは楽しいですか。(80%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段できていることや素敵なことに児童が気づくことができるよう、教師が認めて声をかけるとともに、目に見える形で示す。 ・児童一人一人に対して前向きな声かけに努め、児童の自己有用感を高める。 ・コミュニケーションをとる時間を増やし、子どもの話に耳を傾けることで、相談しやすい環境や雰囲気、安心できる学級・学校を作る。
<p>（保護者アンケート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家では、進んでお手伝いをすることができますか。(58%) ・放課後や休日に、元気に外で遊んだり運動したりしていますか。(71%) ・夜は、10時までに寝ていますか(1・2年は9時までに)(71%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育やキャリア教育の充実を図る。 ・学年だよりや保健だよりなどで、健康な生活などについて啓発や情報提供を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・お子様と、避難訓練など防災についてお話することがありますか。(63%) 前年度より改善されているが、十分とは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年だよりや学校からの手紙で防災についての啓発や情報提供を行う。 ・避難訓練後に家庭で話し合うことができるよう、振り返りワークシートを活用する。

<p>・学校の様子は、学年だより・ホームページ・配布物などで知ることができますか。(86%)</p> <p>概ね肯定的に評価されているが、前年度より4%減っている。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で授業参観が一度も行われなかったことから、学校の様子が分かりづらかったと思われる。</p>	<p>・ホームページの充実を図るとともに、学年だより等で保護者にホームページの啓発を行う。</p> <p>・ホームページ記事作成の計画や作成時間を設定し、各学年・情報部会等で作成する。</p>
<p>(共通) 読書について</p> <p>(児童アンケート)</p> <p>・読書をしていますか。(70%前年度より7%減)</p> <p>タブレットの導入や、感染症対策による図書室開放の一時停止などで、上学年ほど読書の機会が減っている。</p> <p>(保護者アンケート)</p> <p>・読書に親しんでいますか。(47%)</p> <p>ゲームやDVD、YouTubeなどが読書に変わる時間になっている可能性がある。</p> <p>児童・保護者ともに、どの程度読めば「読んでいる」「親しんでいる」と判断できるかが分かりにくいのではないか。</p>	<p>・読書の時間を確保し、図書室を活用する。</p> <p>・図書委員会を中心に、全校で本を読むための取り組みを行うなど、読書への意欲付けをする。(本を借りた冊数を競う、欲しい本アンケートをとるなど)</p> <p>・読み聞かせを行う。</p> <p>・読み聞かせの様子や、学校での読書の取り組みを、学年だより・ホームページなどで知らせる。</p> <p>・目標冊数を決めるなど、どのくらい読めばよいかの目安について考える。</p>
<p>あいさつ・言葉遣いについて</p> <p>・誰にでも気持ちの良いあいさつができていますか。(児童71%、保護者68%)</p> <p>・その場に応じた言葉遣いができていますか。(73%)</p> <p>運営委員が企画したあいさつ大会の時は、あいさつを意識してよくできていたが、大会が終わるとしなくなるなど、定着していない。「誰にでも」というのが難しい。</p>	<p>・常に元気な声であいさつできるよう教師が声をかけ続けるとともに、児童によるあいさつ運動を継続して行えないか検討する。</p> <p>・気持ちのよいあいさつをしている児童を認め、全体のやる気を高めていく。</p> <p>・保護者に向けて啓発し、家庭での協力を仰ぐ。</p> <p>・その場その場に応じた言葉について適宜指導する。</p>

4 自己評価

(1) 自己評価結果

教員は、学校の重点目標に照らし合わせて実践課題を設定し、具体的取り組み事項への取り組みについて自己評価を行った。(別紙④参照)

(2) 教員による自己評価結果からの考察と来年度に向けての改善策について

自己評価結果からの考察	来年度に向けての改善策
<p>① 確かな学力を身に付けた子どもの育成</p> <p>・中間評価から年度末にかけて、自己評価の結果は上がっている。</p> <p>・教師それぞれの意識の高まりにより、学習準備や話を聞く態度なども継続して指導ができており、落ち着いて学習に取り組めるようになってき</p>	<p>○自分の考えや意見を発言できる学習活動の充実</p> <p>・挙手する回数をポイント制にするなど発言への意欲を高めるとともに、発言の機会や自分の考えを伝える場面を増やす。</p> <p>・体験や活動を通して互いのことを知り、自分の</p>

<p>ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を読み、感想を書く活動は新聞に触れるいい機会になり、記事を選ぶ自己決定、自分の意見を書き表すことができるように少しずつなってきた。 ・自分の考えを進んで言うことができる児童が少ない。 	<p>意見を言えるような関係を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が落ち着いてくれば、互いの考えを伝え合う場面を多く設けていきたい。 ・学習の構えについて継続指導するとともに、具体的取り組み事項の中に、「自分の考えや意見を持ち、発言したり聞き合ったりできるようにする」などの、学習内容に踏み込んだ事項を入れる。
<p>② 豊かな心で助け合える子どもの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間評価から年度末にかけて、自己評価の結果は上がっている。 ・「きまりを守っている子やよい行いをしている子を認めて、声をかけたり、紹介したりする」では、プラス評価が93%と高く、ポジティブな声かけを心がける意識の高まりが感じられる。 ・「人権感覚・人権尊重の精神の涵養」に関する項目が、他と比べると低くなっている。 	<p>○ポジティブな行動支援の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の評価と児童アンケートの結果に開きがあるため、ポジティブな声かけに努めると同時に、目に見える形で紹介する。 <p>○児童の実態に応じた人権教育の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権アンケートの結果や学校生活での身近な出来事から、どのような実践を進めていくか校内研修等で共通理解を図り、より具体的な取り組み事項を設定する。
<p>③ 健やかで、たくましい子どもの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「運動の面白さを感じる体育授業の工夫」でプラス評価が高い。体育を専門とする教員が授業に入り、運動の面白さを感じさせたり、運動遊びを紹介したりすることができた。「がんばりを認める」ではプラス評価が100%になっている。 ・「様々な運動や遊びを紹介する」のマイナス評価が高い。コロナ対策で密にならないように配慮していることもあり、運動を進めにくい状況も関係していると思われる。その中でも、中間評価より年度末評価においてマイナス評価が減っており、コロナ禍でもできる遊びを見つけて子どもたちは外遊びをしている。 ・「早寝・早起き・朝ご飯」はマイナス評価が少なく、生活の基本となる部分の啓発ができているが、姿勢については改善する必要がある。 	<p>○運動しやすい環境の整備</p> <p>○進んで外遊びや運動をする雰囲気作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育委員や運営委員の活動の中に外遊びや運動に関するものを取り入れ、児童主体で運動をする楽しさを味わう機会を設定する。長縄大会等の行事をうまく活用し、今後も児童のがんばりを認めていく。 <p>○食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の活動時間や授業の一部などで、栄養教諭を教室に招いて食育に関する学習や活動を行う。 ・食育動画について、全校で視聴の時間を確保するなど、有効活用を図る。
<p>④ 一人一人を大切に作る指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的取り組みの結果、個別の支援を必要とする子どもたちが、適切な場所で学習できるように環境が整ってきつつあり、教師の意識や声かけも変わってきた。 ・「当たり前なことでも児童をほめたり、「ありがとう」を伝えたりする。」のプラス評価は100%と高い。 ・教師の声かけや運営委員の取り組みにより、当 	<p>○一人一人に応じた指導・支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階に応じた具体的な言葉かけや、視覚的な支援の方法について教職員が学ぶ。 ・特別支援教育等について、保護者に啓発したり一緒に考えたりする。 <p>○「ありがとう」の広がる学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの話に耳を傾け、否定的な言葉ではなく肯定的な言葉で話すようにする。

<p>たり前のことができる児童が増えてきたが、今後も継続した取り組みが必要である。</p>	<p>・「ありがとう」の積み重ねで児童の自己有用感を高めていく。</p>
<p>⑤ 安全・安心な学校づくり</p> <p>・全体的に肯定的な評価が多い。「校内の安全管理に徹底」については、中間評価から年度末で大きく改善されており、意識的に取り組んでいることが表れている。ただし、名札・上靴着用や校内での右側歩行について一部徹底できていないところがあり課題が残る。</p> <p>・「防災意識の高揚と避難行動の徹底」では、家庭との連携の取り方に改善の余地があると思われる。</p>	<p>○校内での安全な歩行指導</p> <p>・運営委員や学級のリーダーなどの声かけで児童自ら改善していく機会を作る。</p> <p>・移動教室の際に並び方や歩き方を徹底し、正しい歩行について理解させるとともに、廊下や階段は走らず右側を歩くよう、声かけや指導を続ける。</p> <p>○防災についての家庭への啓発</p> <p>・避難訓練後に家庭で話し合えるような情報提供やワークシート等の活用を進める。</p>
<p>⑥ 保護者・地域等と協力・連携した学校づくり</p> <p>・コロナ禍で地域や各機関との交流が難しい状況であったため、自己評価においてもマイナス評価が見られるが、ゲストティーチャーを招いたり、校区探検に出かけたりするなど、できる限り地域との関わりが持てるよう心がけた。</p> <p>・児童・保護者アンケートを行うことで、実態や保護者の意見を把握することができた。</p> <p>・ホームページに、学年だよりをまとめてあげるようにしたことで更新の漏れがなくなりよかった。一方、学校生活や学習の様子の記事はなかなかあげられず、十分な発信ができたとはいえない。</p>	<p>○地域との交流方法の模索</p> <p>・適切に感染症対策をとりながら、地域との交流ができるよう、カリキュラムや活動内容を工夫し、Zoom 等オンラインでの交流も視野に入れて教育活動を進める。</p> <p>○学校ホームページの充実</p> <p>・各学年にホームページ担当をおき、月一回は学校生活や学習の様子の記事にして更新できるようにする。</p>
<p>⑦ 効率的で働きやすい職場づくり</p> <p>・「グループウェアを使った情報共有」はプラス評価が100%となっている。STORKについては、見る側は毎日必ず確認し、発信する側はなるべく早めに発信することや急な場合は放送も併用するとよい。また、校務支援システムはタブレットでも見られるようにしてほしい。</p> <p>・研修担当が公開授業を見られる機会を設定してくれてはいたが、空き時間が少なく日々の業務に追われて参観が難しい状況であったためかマイナス評価が31%と高かった。</p> <p>・中間評価より改善されてはいるものの、退勤時刻については年度末で48%がマイナス評価と課題が大きい。</p>	<p>○声をかけ合い、学び合う「チーム福島」</p> <p>・気軽に教室を行き来し、声をかけ合えるよう、教室の戸は開けておく。</p> <p>・特別な準備をしたものではない普通の授業や、朝の会、給食指導なども見合えるようにする。</p> <p>○業務の精選と超過勤務時間の改善</p> <p>・保護者やボランティアに協力を仰ぐ、子どもが行うようにするなど、仕事の中で分担できる部分を考える。</p> <p>・退勤時刻を学年ごとに相談して決め、宣言する。</p>

5 まとめ

今年度は、GIGAスクール構想による一人一台のタブレット端末が本格的に活用され始めた変化の年であった。また、一昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響も大きく、日々の学校生活や学習、学校行事など教育活動全般において、常に臨機応変な対応と変更を余儀なくされた一年でもあった。感染症対策のため、保護者や地域に学校を開く行事の中止が相次ぎ、直接子供たちの様子を見たり、関わったりしていただくことができない状況ではあったが、現在では必要に応じてリモート授業を行うことが可能になってきた。これは、手探りの状態から子供たちとともに ICT を用いた実践に取り組んできた成果であり、今後感染症の影響が続いても子供たちの学びを止めないための一歩となると考える。また、タブレット導入や感染症対策だけでなく、「当たり前」の意識を持ち、継続して声をかけ続けたことで、子供たちの行動に変容が見られ成果が上がってきている。

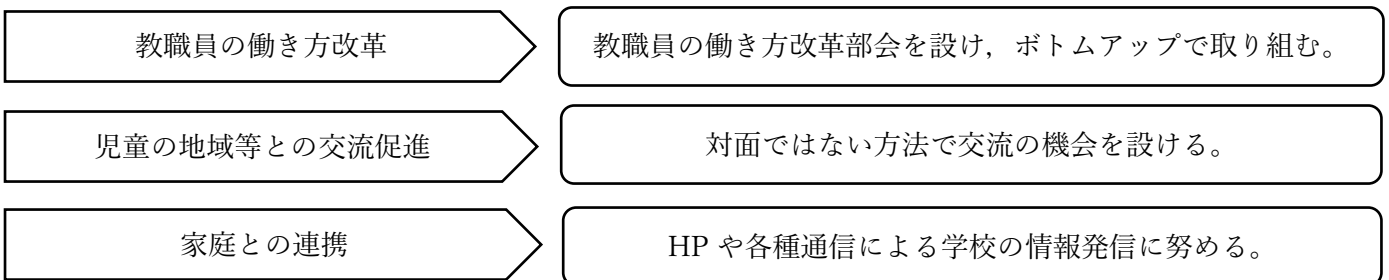
なお、先に挙げてきた結果および改善策をもとに、学校評議員の方々からは次のようなご意見をいただいた。

- 新型コロナ対応のための先生方のご尽力に感謝する。夜遅くまで明かりがついているので、先生方自身のためにも子どもたちのためにも早く帰って休んでほしい。
- 子どもたちは、地域の一員として育つべきだが、今は交流が難しい。新型コロナが落ち着いた頃に、少しずつでも交流の機会を戻してほしい。
- タブレットの活用など、新しい教育に取り組んでいるのが頼もしい。
- 子どもたちの道徳性は、家庭と学校の両方で育っていく。今は難しいと思うが、家庭へも啓発を続けてほしい。
- 登校中にあいさつをしてくれる子どもさんもいて、気持ちよく1日が始められる。

いただいたご意見を受け、次年度への課題と今後の改善方策として以下の点を挙げる。次年度は、それらに沿って学校改善に努めるとともに、重点目標達成に向けた取り組みを推進したい。

次年度への課題

今後の改善方策



「子どもも大人も本気で努力できる 楽しい福島小学校にするために」校長室壁面掲示